

J R 東海 労
大 二 運 分 会

交 差 点

No. 3 2 0
2 0 1 1 年 1 2 月 1 5 日
責 任 者 : 高 原 弘 幸
発 行 : 教 宣 部

ボーナスカットによる組織破壊を許さない!!

2011年の年末手当が支給されました。私たち分会組合員の7名の仲間に対して、不当にもボーナスのカットがありました。納得いかない各組合員が担当助役に理由を尋ねましたが管理者は口を揃えて「総合的判断」としか答えません。これでは誰のための担当なのか、無責任にも程があります。社員の手当てを理由も言わずに勝手にカットすることは私たちは断じて許せません。さらに分会組織の3分の1にもなる7名へのカットは明らかに組織破壊を狙った行為です。12日、分会はそうした行為を行った会社に対して以下の抗議文を現場長へ突きつけ抗議しました。抗議を行った分会役員に対して会社は大勢の管理者が取り囲み威圧・妨害しました。

J R 東海 大 阪 第 二 運 輸 所
所 長 州 崎 敬 久 殿

抗 議 文

会社は、2011年年末手当において7名の仲間に対して不当にもボーナスカットを行った。分会組合員の3分の1にもなるこのカットの現実には明らかに組織破壊を目的にしたものであり、断じて許さずここに抗議する!

10月5日、名古屋の地において私たち東海労は新しい仲間を迎えた。勇気ある決意を持って若い仲間が加入したのだ。この日以来、本人に対して会社はユニオンと一体となって陰湿な嫌がらせを行ってきた。正しいことを正しいと言うことの大切さ、おかしいことをおかしいと言う事の勇気、会社の中であってこんな基本的な事さえも言えなくなってしまうJR東海会社にとってこうした若い仲間をはじめ私たち東海労の存在が邪魔でしようがないのであろう。

この間、ボーナスカットという精神的、金銭的に生活面から本人を参らせてしまおうと、また組織の分断を図ろうとする攻撃は後を絶たず、その現実には異常な添乗に現われている。

しかし、私たちは職場の実態を見たとき、体調を崩して休まざるを得なくなる社員や、悩んだり苦しくても声を出せない職場になっていることに警鐘を鳴らしてきた。「日勤教育」「還流」「添乗」「試問」「業研」「QC」などなど例を挙げればきりが無い。一人では声を出せない現実を我々は、少しでも改善しようと職場の主人公となって訴えているのだ。

我々の声の広まりや、追い込まれた会社の苦し紛れのあがきがこのボーナスカットとなってしかけられている。繰り返し明らかにする。私たちは陰湿なボーナスカットを断固許さず、今後も職場を明るくし、風通しのよい職場にするために仲間を信じて闘っていくものである。